

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 体育学部・体育学研究科

研究 1-1

体育学部・体育学研究科

I	研究水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、論文掲載数は77件、教員一名当たりの論文数は1.3件であり、国際学会には招待講演、パネリストとして参加している。学内において、競技スポーツを支援するTASS（Top Athlete Support System）プロジェクト研究、運動による健康作りを支援するPALS（Promotion of Active Life Style）プロジェクト研究を実施しているが、前者のプロジェクト研究は世界選手権大会等における優勝、入賞に多大な貢献をしている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の申請数は54件、採択数は21件、採択率は38.9%、配分額は4,035万円であり、いずれも平成16年度以降徐々に増加している。共同研究・受託研究は合わせて10件、1,000万円であり、このうち共同研究の件数は平成16年度以降やや増加していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、体育学部・体育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、体育学部・体育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究業績はみられなかったものの、体育大学の特徴として、競技力の向上のための指導理論、トレーニング理論が挙げられる。特に骨格筋に関する基礎研究において国際的に評価の高い優れた成果を上げている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績はみられなかったものの、学内研究の一つであるPALSプロジェクト研究において、地域と連携を図りながら中高齢者の運動による生活習慣病の予防システムを構築するなどの優れた成果を上げている。また、TASSプロジェクト研究において、競技スポーツにおけるトレーニング法の在り方に影響を与えるとともに、国民のスポーツ振興にも影響を与える優れた成果を上げている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、体育学部・体育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案し

た結果、研究成果の状況は、体育学部・体育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

